



様式第 1 号

令和 2 年 11 月 17 日

真庭市議会

議長 古南源二 殿

真庭市議会議員 小田康文 印

調査研究、研修会、要請・陳情活動届

政務活動費を使用して、下記のとおり研究、調査等を行いますので届けます。

記

1 区 分 調査研究 研修会 要請・陳情活動

2 訪 問 先 11 月 29 日 高知県立美術館

高知県高知市高須 353-2

3 内 容 高知県立美術館 特別展
隈研吾展 を視察

令和 3 年度、蒜山地区に設立される「真庭市蒜山ミュージアム」に常設展示される予定である建築家・隈研吾氏の展示物、展示や管理のされ方等を視察し、真庭市での適切な展示・管理や運営に対する知見を求めるため。

4 行 程 別紙のとおり

5 事務局から訪問先への依頼 必要 ・ 不要

(注) 複数の議員で実施する場合、代表者の届けでよいが、参加議員名簿を添付すること。

参加議員名簿

森真会

小田康文、竹原茂三、庄司史郎、大月説子





様式第 2 号

報 告 書

令和 2 年 12 月 23 日

真庭市議会議長 古南 源二 殿

報告者 真庭市議会議員 氏名 小田康文 印
竹原茂三
庄司史郎
大月説子

下記のとおり政務活動費を使用して 調査研究・研修会・要請陳情活動をしましたので、その結果を報告いたします。

1	日 時	自 令和 2 年 11 月 29 日 (午前・午後) 7 時 00 分 至 令和 2 年 11 月 29 日 (午前・午後) 3 時 00 分
2	場 所	高知県高須353-2 高知県立美術館
3	用 件	高知県立美術館で開催されている隈研吾展を見学して、真庭市ミュージアムの運用に活かす
4	概 要	7時に真庭市を出発して、10時頃高知県立美術館に到着した。 高知美術館はコンクリート製の建築物であるため老朽化しているように見えたが、中は美術館として整備されていた。周囲は公園になっていて、市民の憩いの場となっていたが、時間が早かったためか人手は多くなかった。

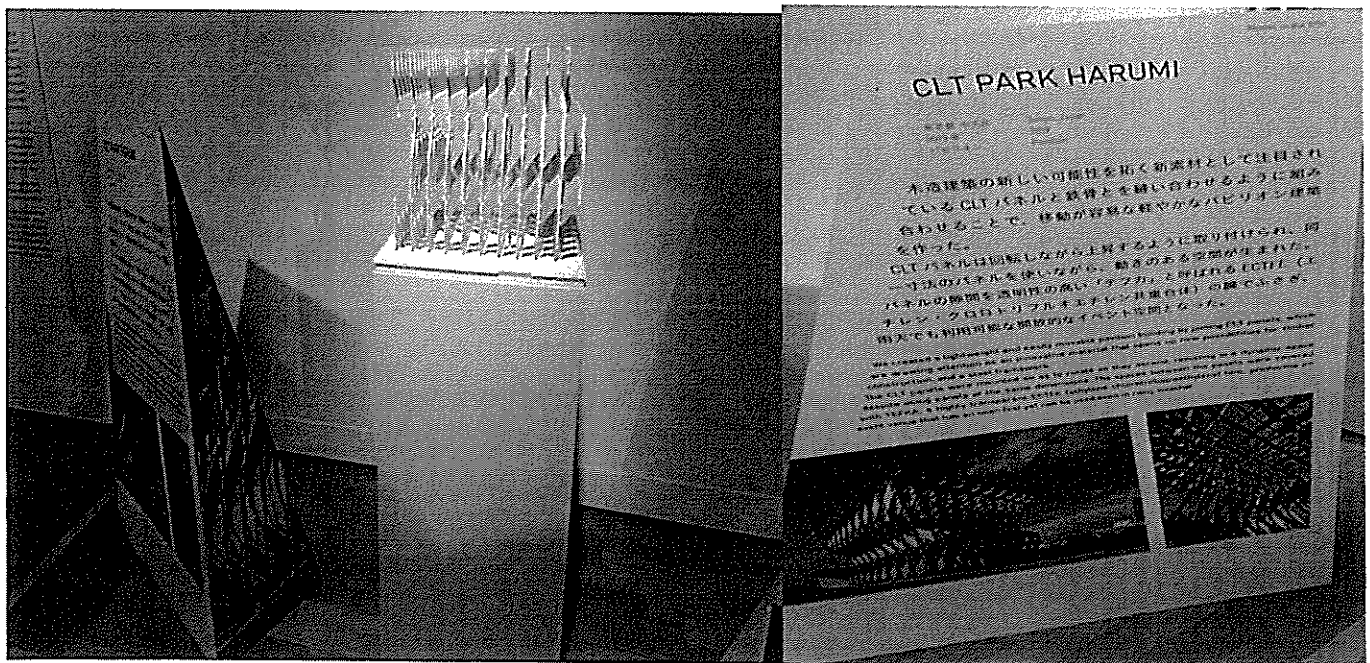




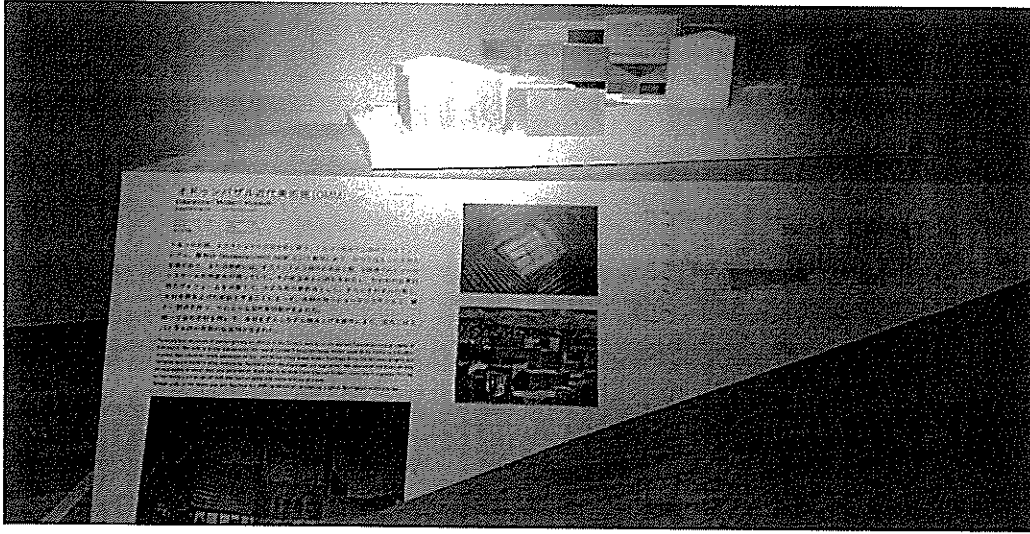
美術館には、隈研吾監修の建築物のミニチュアが展示してあった。隈研吾展の入り口と出口は勿論のこと、複数の監視員を配置してあった。作品に触れてはいけないが、フラッシュをたかなければ写真はOKであった。

隈研吾監修の建築物が多数展示してあった中で、印象に残った作品を以下に記載する。

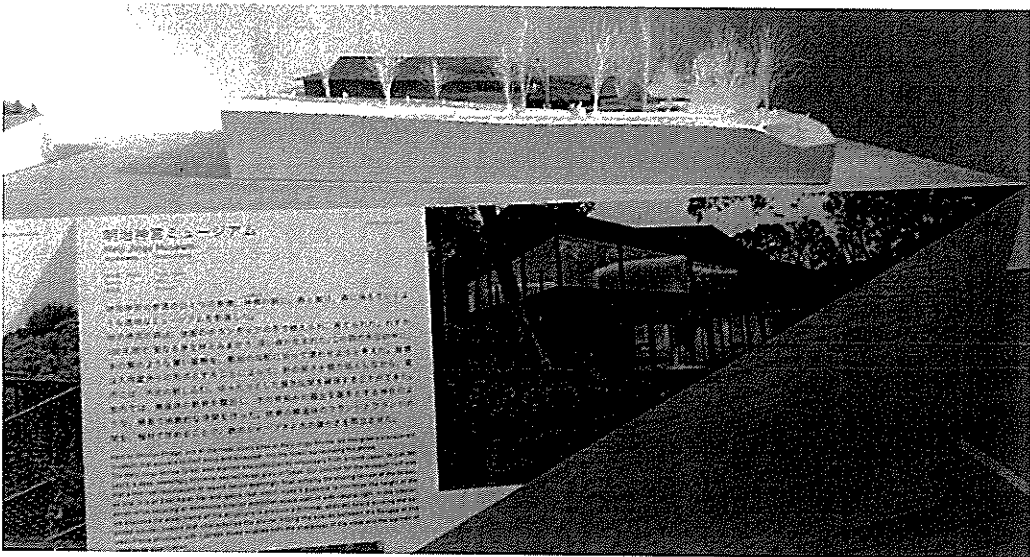
<真庭市に移築予定のCLT HARUMIも展示中>



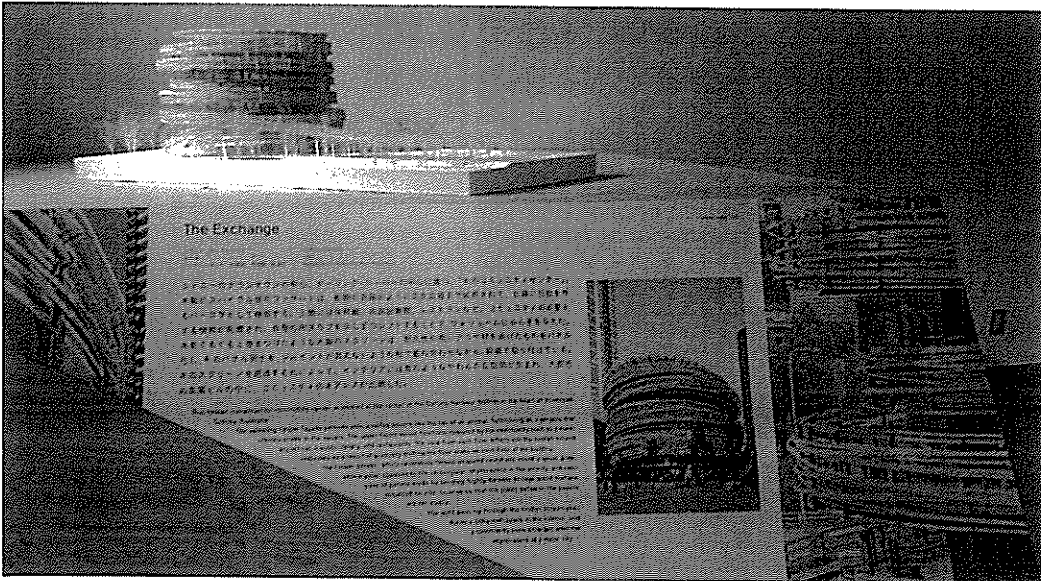
<トルコ オデュンバザル近代美術館>



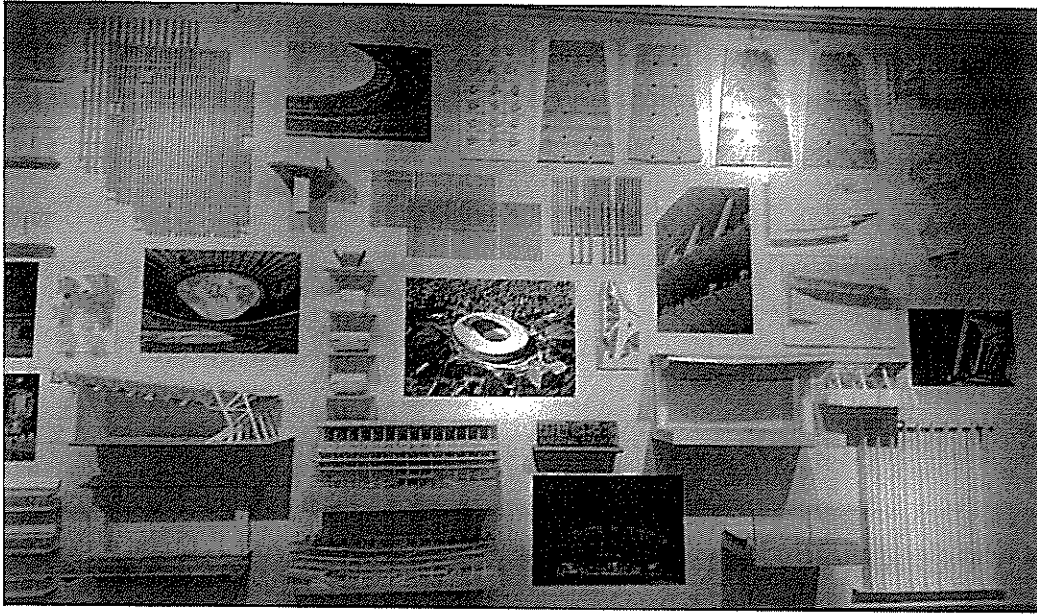
<明治神宮ミュージアム>



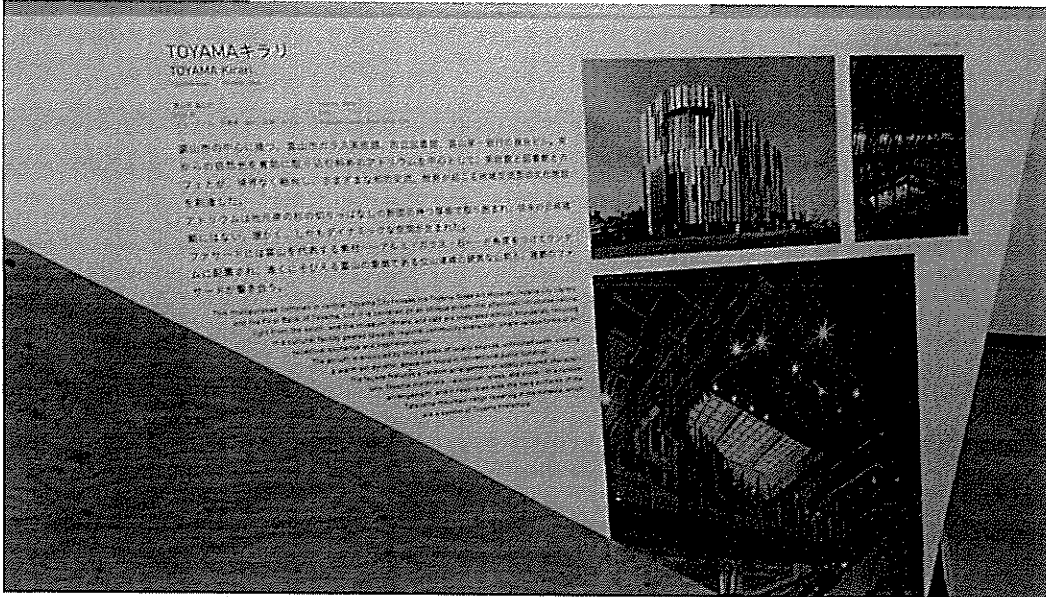
<シドニーのダウンタウンの中心ゲーリング・ハーバーに立つ木のコミュニティーセンター>



<東京国立競技場>



<富山県のTOYAMAキラリ>



展示物の見学を終えたのち、学芸員（学芸課長：奥野克仁様）の方に話を聞く機会を得ることができた。以下その内容をQ&Aで記述する。

Q：学芸員は、第3セクターの職員か、県の職員か？

また、常時美術館におられるのか？

A：学芸員は、県の職員であり9名いる。常時美術館に在任している。

Q：県立美術館の企画運営の全てを学芸員が行っているのか？

A：すべて行っている。

学芸員が9名いる。一人ではできない。それぞれの専門分野がある。自分が学んだ以外のことをやるとなると、一から勉強しないとできない。

Q：展示の環境はどうか？（湿度とか温度など）

A：特に気を使うことはない。壊れたら直せばよい。部分的に補修できるのも隈研吾作品の特徴ともいえる。気温23度、湿度53%であった。

Q：来場者については、隈研吾展を開催して特に増えたか？

A：通常は1：9で高知県民が多いが、隈研吾展を行っている現在は3：7で県外の来場者が増えた。

Q：特別展の期間はどのくらいか？

A：1クール3か月で、年4回開催する。

Q：観覧料が一般1300円、高校生・大学生800円、小学生・中学生500円であるが、運営の採算は取れるのか？

A：採算は取れない。設置主体が赤字を覚悟で、どのような効果を生みたいかである。

Q：木材（CLT）の雪害についてはどうか？現在東京晴海にあるCLT建築物が来年真庭市蒜山に帰ってくる。蒜山の場合、雪が上から降ってくるのではなく下から吹き上げてくるためCLTに付着するため、腐食が早くなるのではないか？

A：何年位で腐食するかは、地域の気候の違いもある。行政としては、回収するための費用については覚悟しなければならないと思う。

A：建物は、CLTと鉄骨でできているが、部分的に補修できる利点もある。

Q：隈研吾の作品は、国立競技場の建築監修で一気に注目を浴びたが、このブームは長く続くものなのか？

A：隈研吾の作品は、木材と鉄骨を上手に組み合わせている。さらに木材を活用した建物は環境にも良く、しばらくはブームが続くと思う。

<視察研修を終えて>

隈研吾展が高知県立美術館で開催されているとの情報が入り、真庭市での今後の取り組みの参考にしたいと、会派で視察研修に行った。

隈研吾氏の建築物が実際に展示されている様子を見ると、展示物の保管方法には、特別な注意は必要ないが、来館者の方が触って壊したりしないか、監視員を多く配置されていた。隈研吾の作品が展示してあるだけでなく、隈研吾氏の町や建物づくりへのメッセージなどをビデオで流していた。見学者はそれほど多くはなかったが、熱心に見ておられる人もあった。

幸運にも学芸員の方から話を聞く機会が得られた。そのことで、美術館を運用することが直接的な増収になることはないため、活用してどのようなまちづくりを目指すのか、行政がしっかりと方針を市民に対して示す必要性を感じた。更には、美術館を効果的に運用するためには、多くの学芸員が必要なことも分かった。真庭市の場合1名の学芸員のため、できることに限界があるばかりか、真庭市全体の文化の発展に寄与されるとのことで、重責を担うことになるのではと危惧する。真庭市蒜山ミュージアムの運用はすでにサイコロは振られているため、多くの市民が活用し、交流の拠点になることを願ってやまない。